
夢

我狼 龍牙

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢

【Nコード】

N5073L

【作者名】

我狼 龍牙

【あらすじ】

暗闇の中での最期の会話。

暗闇の中、僕は一人つきり。
どこまで歩いてても暗闇。
すぐにこれは夢だと分かった。

そんな中、目の前に映像がとんだように、いきなり眼鏡をかけた
まだ若い白衣を着た僕の担任が出てきた。

「悩みを言つてごらん？」

唐突に、もう聞かないと思つていたいつも面談で聞かれる質問が
飛んできた。

「なんで僕は生まれてきたんですか？」

「親の気まぐれだ」

なにかいつもと対応が違う。

「なんで僕は生きているんですか？」

「社会が無理やり生かしているからだ」

「なんで僕はこんなに勉強しているんですか？」

「社会の歯車になるためだ」

「なら僕はどこに向かっていけばいいんですか？」

「知らんよ、そんなこと。」

素っ気ないな。

「何もないんだつたらとりあえず勉強して社会の歯車になれ」

それは僕が求めている答えじゃない。先生、ちゃんと答えて下さい。
い。

「真面目に答えて下さい」

「真面目に答えるだと？」

ハッ、甘えるな。自分で探せ。

上から降ってこないなら地面を這いつくばってでも探せ。
地面にもないなら穴を掘って探せ。

それでも見つからないなら・・・諦めな」

「もつと楽に見つからないんですか？」

「知るか。そんな方法があるならこんな仕事してねえよ」

いつもニコニコしているけど本当はこんなことを考えてたんだ。

「もういいか？俺は疲れてんだ。帰らせてもらっぞ」

「先生！！」

いかなり背を向けた先生に僕は久しぶりに大きな声を出して呼び止めた。

「なんだ？俺は早く帰りたい・・・」

「先生の夢はなんでした？」

僕の質問に先生は狐につままれたような顔を見るとフツと笑った。

「忘れたよ、そんなもの」

いやあの顔は覚えているな。

「だけど一つだけ」

「え？」

「一つだけ人生の先輩からのアドバイスだ」

何だろう？

「とことん悩め。悩んで悩んで悩み抜け。

そうすれば後悔なんてしなくてすむ。俺みたいにな」

またこっちに背を向けて歩き出した。

「お前はそうはなるなよ」

片手を上げて去っていく、その先生の後ろ姿を僕は生まれて初めて『カッコいい』と思った。

それから五年後、僕は今、教卓の上に立っている。

先生は今もういない。

卒業式の日、つまり夢で会った日に急死された。心筋梗塞だった。

僕は驚いたが、不思議と悲しくはなかった。

それは多分、またあの夢の中で会える気がしたからだと思う。

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5073/>

夢

2011年4月23日18時27分発行